

課題名 「シカ防護柵の破損リスク低減に向けた取り組みと課題について」

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター
関東整備局 保護係長 田中 浩二
分収林契約係 長柄 豊

1 課題を取り上げた背景

シカ等による食害は、年々増加傾向となっており、新たに植栽を行う際にはシカ防護柵の設置が不可欠となっていますが、これら防護柵の破損をいかに回避するかが成否のカギであり、破損の一因である動物による干渉を軽減することが重要となっています。森林整備センター関東整備局では、森林総合研究所と協力し、平成27年から、柵を設置する区画を細かく区分し動物の通行を妨げないことで破損を回避する「ブロックディフェンス」に取り組み、一定の成果を得ているところです。今回は、この取り組み事例と課題について紹介致します。

2 具体的な取組

シカによる防護柵への干渉を避けるため、約2haの植栽地の全周を防護柵で囲うのではなく小規模なブロックに分け、動物が通行できる通り道を作り、各々のブロック毎に防護柵を設置しました。また、落石等による破損を避けるため、崖地形を回避したり、植栽地の周囲の林縁木から距離をとるなどの設置の工夫も同時に行いました。



(ブロックディフェンスの設置状況)

3 取組の結果

区分けしたブロックディフェンスに設置したモニターカメラや現地踏査から次のことが確認されました。

- ①大きな破損箇所は確認されず、シカによる食害を受けた木もありませんでした。
- ②通り道は、シカによる捕食がみられ造林地に比べて植生が少なくなっていました。
- ③シカが獣道を通りたがる様子が見られましたが、付近の通り道を通行することが確認されました。

4. 効果の検証
ブロックディフェンスの実施による効果



(通り道の下層を捕食するシカ)

4 まとめ

森林整備センターでは、これまでに群馬県、山梨県、静岡県においてブロックディフェンスを実施しているところですが、動物による防護柵への干渉に対しては有効な手段であることが確認されました。なお、ゾーンディフェンスに比べて、防護柵の設置延長が長いため初期投資が高くなりますが、食害に伴う再植栽等を考慮すれば、当初植栽時からブロックディフェンスを実施すれば、経費はほぼ変わらずに食害リスクの低い山林が形成されと考えられます。また、ブロックディフェンスは動物の通り道を固定し、誘導することが出来るため、くくりワナの設置など捕獲対策との連携も今後の課題として検討しているところです。これまでの取り組みやブロックディフェンスの実証を踏まえ、【これにくいシカ防護柵の手引き「ブロックディフェンス」への取り組み】を作成しておりますので、皆様のご参考になれば幸いです。